

外国ルーツの高校生のキャリア支援に必要な準備と対策 —学校内で実際にあった落とし穴を紹介します！—

広島県立高等学校に在籍する外国ルーツの高校生(以下、外国人生徒*)を対象とした、約3年間のキャリア・進路支援から見た困りごと(=困)と、その対策(=対)を紹介します。*対象生徒は全員フィリピン国籍です。

I. 入学・転入時

A. 生徒についての情報

困 入学・転入後は、学校生活に必要な情報を伝える機会が多くあります。「分かりますか?」と聞くと「はい」と答えたのに、提出締切を守らず、対応に困ります。

対 個別調書(参考 a)を活用しましょう。外国人生徒を取り巻く環境は日本人生徒とは異なることが多く、日本人生徒と同じ対応だけでは十分とは言えません。小中学校で調書を作成していた場合、それを入手してアップデートすることも可能です。また、生徒と話す時「分かりますか?」よりも「〇〇は何日までに持ってきますか?」と、具体的に生徒に確認する質問をするとよいでしょう。

B. 保護者との連絡

困 保護者に連絡をしたいのに入学時に提出してもらった連絡先が通じません。保護者の職場も連絡が取れないと言われます。生徒に聞いても曖昧な返事しかなく、保護者署名が必要な書類がたまる一方です。

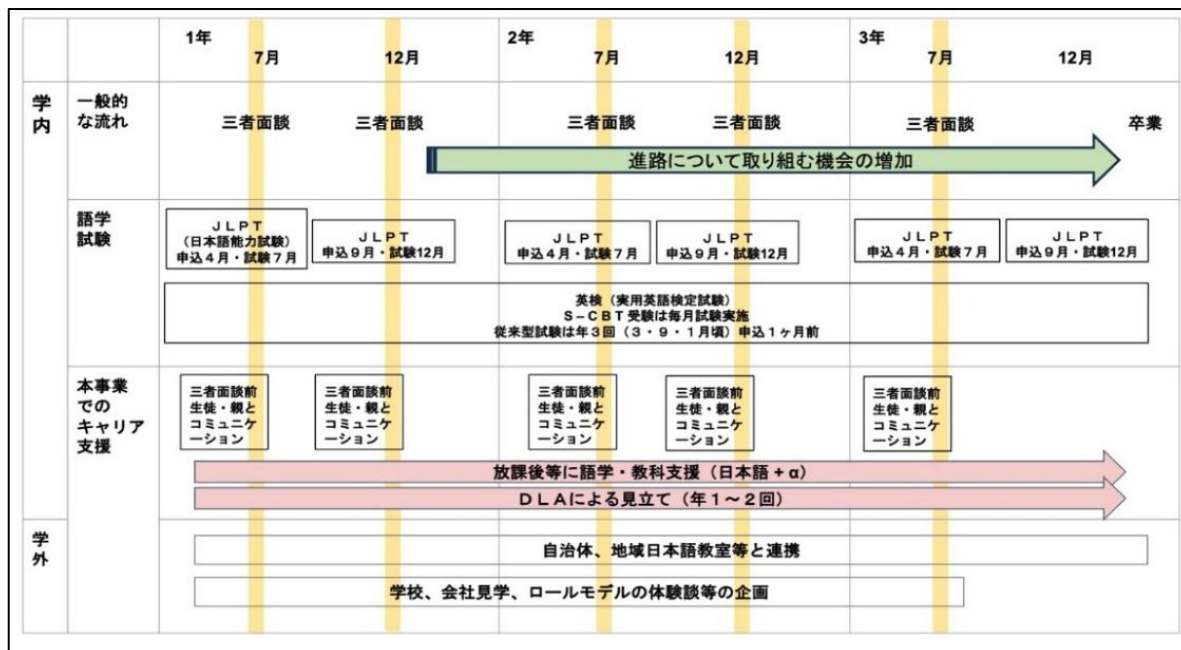
対 入学手続や入学式に保護者が来たら、その場で連絡先をできるだけ多く聞きましょう。連絡先にはすぐに一度電話をして、緊急時以外にも学校から電話することがあると伝えておくとういと思います。欠席・遅刻の際は、保護者から学校に連絡が必要だということも伝えておくとういでしょう。

★重要★「やさしい日本語」

生徒と日本語でコミュニケーションをする際は、本当にこちらの伝えたい内容がきちんと理解できているか確認しましょう。性格やあいづちにも個人差があるので、生徒の返答が本人の気持ちを十分表現できているとも限りません。外国人生徒は、十分に理解できない言語の中で常にストレスを感じて生活しています。教員など目上の日本人との関係にはとても敏感です。とりあえず「はい」と言ってやり過ごすこともあります。日頃から「やさしい日本語」を使うなど、少しでも答えやすい環境をつくるよう心がけましょう。(参考 b)

II. 高校在学中

「高校在学中の主なキャリア支援の流れ」



C. JLPT(日本語能力試験)

困 高校3年の5月に、「履歴書の資格欄に書きたいので、日本語能力試験を受けたい」と相談されました。調べると次回試験日は12月(結果が出るのは1か月半後)で、履歴書作成には間に合いませんでした。

対 外国人の日本語能力を測る試験はいくつかありますが「JLPT(日本語能力試験 参考c)」が最もよく知られています。日本語を勉強したいけれど、何から始めればいいのか分からない人には、段階的に学べるこの試験が有効です。ただ1年に2回(7月と12月)しか実施されず、申込み期限が約3か月前と早いため、機会を逃さないようにしましょう。

【参考】DLA(Dialogic Language Assessment) =外国人児童生徒の能力を測る文部科学省の評価ツール

外国人生徒の語学力というと、どうしても日本語力に目が向きますが、母語力や英語力、他にも特別な技能をもつ生徒も多くいます。日頃から生徒の能力を総合的に把握するよう心がけましょう。(参考d)。

D. 進路支援のために

困 2年生の進路選択で「就職」か「進学」かの希望を聞きました。外国人生徒本人は「就職」と答えましたが、職種や条件の希望は無く「何でもいい」「分からない」としか言いません。3年生になっても、自分の長所や特技などをまとめる(書く)作業が進みません。

対 外国人生徒、保護者ともに、日本での進学や就職に関する知識が全く無い場合があります。そこで、外国人生徒のみを対象に、職場見学、学校見学、ロールモデルの体験談を聞く機会などを可能な限り増やし、早いうちから視野を広げておくことは大切です。また、普段から生徒の得意なことや日本語の上達ぶりなどを言語化して本人に伝えることで、自己肯定感の高まりにつながるでしょう。

☆補足☆ JLPT(日本語能力試験)

日本語能力試験の受験料は7,500円(2025年12月時点)。会場は試験1週間前に受験票が来るまで分かりません。県内では広島市内だけでなく福山市内の会場になることもありました。受験会場までの交通費もかかります。また試験時間はレベルによって異なります。必ず事前に詳細を生徒と一緒に確認しましょう。

☆補足☆ 英語で受験可能な大学

広島県内の国公立大学で、英語で受験も学位取得も可能な大学に、広島大学(総合学部国際共創学科)と、広島県立叡啓大学があります(2026年2月時点)。日本の大学に進学したいが、自分の日本語力では無理だと諦めている外国人生徒で、英語力が高い生徒には薦められます。本事業では、外国人生徒を対象に学校見学等の活動を行っていますが、見学後は大学進学が一気に現実味を帯び、入試に前向きに取り組むようになりました。事前に連絡すると授業見学や在学生の話を聞くなどの機会を設けてもらえる場合もあります。

E. 保護者との進路についてのコミュニケーション

困 生徒が「進学したい」と言うので、進学準備を進めていました。3年生の夏の三者面談の最終確認で、保護者が「就職させたい」と言い出し、急きょ進路変更となりました。早めに保護者に連絡すべきだったと反省しました。

対 外国人生徒の保護者対応には落とし穴がいっぱいです。教師⇒生徒⇒保護者という連絡経路だと、保護者に正確な情報が伝わらず、最終確認で思いもよらない結果になることがあります。必ず保護者に直接連絡を取りましょう。また「保護者ならこう考えて当たり前」という思い込みにも落とし穴があります。保護者が育った国や文化や受けた教育などにより、理想とするキャリアの捉え方は大きく異なることも頭に入れておきましょう。

■事例1 生徒Aさんの場合

Aさんは、高校1年生の時に母国からダイレクト編入。真面目で毎日休まず通学しました。日本語力もコミュニケーションが十分取れるレベルまで伸び、英語力もあります(英検準1級合格)。進路選択で「進学」を希望していましたが、3年生の夏の三者面談時に、父親の一存で「就職」に変更しました。就職先の選定でも、本人は学校が推薦した大手企業を希望しましたが、父親は自身が勤める水産会社で働くよう言います。水産会社の社長も「本人が希望するなら企業を受けたらどうか」と勧めましたが、父親は納得しませんでした。生徒、父親、教員、市職員、水産会社の社長が一同に話し合いを重ねた結果、大手企業に採用されました。

★重要★ 在留資格

生徒の就職活動の際、在留資格は必ず確認しましょう。たとえ国籍が同じでも、在留資格は個人により異なり、就職のために資格変更が必要な場合もあります。企業は在留資格に就労制限がある生徒は採用できません。進路指導を進める前に、生徒の在留カード(参考 e)を原本で確認してください。生徒自身が在留資格について無頓着な場合も多いので口頭確認は避けましょう。

F. 生徒の能力把握

困 生徒の希望する進学先に入試前に連絡し、生徒の日本語力、とりわけコミュニケーション力が低いと伝えたと、面接で頑張るように言われました。学内で何度も練習した成果もあり、本番ではそれなりにできたのですが、筆記試験の点数が低かったため不合格となりました。日本語能力について、読み書きのレベルなどもっと具体的に伝えておけばよかったと残念に思いました。

対 外国人生徒の日本語のレベルを把握するのに、「日本語能力試験」を参考にする教育機関や企業が増えましたが、「日本語能力試験」はあくまでも日本語を母語としない人のための試験です。日本人生徒と一緒に一般常識テスト等を受ける場合、特に非漢字圏出身の生徒にとって漢字の読み書きは大変難しいものです。外国人生徒が希望する進学、就職先とは、受入れ側が想像する日本語能力との細かいすり合わせを事前にしておくことが必要かもしれません。

III 卒業後に備えて

高校卒業時の進路が決まっても日本でのキャリア選択は続きます。職場でのトラブル、転職、編入、資格取得の準備など、生徒自身が自分の道を切り開いていけるように、高校在学中にできる支援があります。

G. 転職に備えた情報提供

困 日本語力があまり高くない生徒の正規雇用が決まり安心していたところ、卒業から半年後「仕事中にケガをして2、3か月休むことになり、会社で相談できる人がいない」と(保護者から)連絡がありました。今後のことを考えると心配です。

対 高校卒業後は、教職員のように親身に相談に乗ってくれる人が周囲にいない場合が多く、本人が納得しないまま、非正規雇用を繰り返す場合もあります。地域の日本語教室、外国人相談窓口(参考 f)、就労のための日本語教室(参考 g)等の存在は、将来貴重なセーフティーネットになり得ます。

☆補足☆ 地域の外国人支援

居住地域にある地域日本語教室などの外国人市民の支援を活用しましょう。外国人生徒や家族にとっても貴重なネットワークとなります。ただし、外国人市民同士の人間関係を考慮し、プライバシーに関わる情報の取り扱いには十分気を付けましょう。

■事例2 生徒Bさんの場合

大学に合格したBさんから入学後1週間も経たないうちに「学校を辞めたい」と連絡がありました。子どもの頃から希望していた職業を諦められないと言うのです。自宅から通えて英語で学位が取れる大学を選び、合格の際には学校を挙げてお祝いしたばかりでした。退学について相談した日本人は口を揃えて「せっかく合格したのに」「もう少し頑張ってみたら」と言いましたが、彼女の意志は固く母国で大学受験する計画も立てていたため、その道を応援することにしました。1年後、母国で生き生きと学んでいる写真を送ってきてくれました。「日本人の常識」に捉われて少し遠回りをさせてしまったのかなと反省しつつも、今後の活躍を心から期待するばかりです。

■事例3 生徒Cさんの場合

Cさんは日本語力でのコミュニケーション力が高いのですが、金銭的事情から進学を諦めていました。広島県立高等技術専門校を教員から紹介され、学費の安さから迷わず受験して見事合格しました。進学後は多くの資格を取り、一年後企業に正社員として採用されました。外国人生徒の進学のネックとして金銭的事情は大きいです。高等技術専門校はそんな生徒の選択肢の一つになります。(参考h)

■事例4 生徒Dさんの場合

Dさんは英語力が高く向学心があり、1年生の頃から学外の様々なプログラムに参加しています。海外の大学主催の高校生向けオンラインプログラムにも、高校の推薦を得て選ばれました。卒業後は英語で学べる大学進学に向けて「SAT」や「IELTS」が必要なので、情報を集めたり教材を準備しなければなりません。保護者は「日本の大学のことは分からないので、あなたの好きなようにしていいよ」と応援はしてくれるが相談相手にはならないそうです。外国人生徒の進路支援では、日本人生徒の範疇を越えた支援が必要となり、教員にとっては大きな負担、時には不安となる場合もあります。一方で外国人生徒に聞くと、何もかも教えて欲しいというよりは、自分の話を聞いてくれて一緒に調べてもらえる人がいるだけで安心するようです。生徒に寄り添いながら、一つ一つ一緒に乗り越えていくという姿勢が一番大切かもしれません。

参考 a 東京学芸大学 先端教育人材育成推進機構 外国人児童生徒教育推進ユニット(2022)「高等学校における外国人生徒等の受入の手引」<https://kodomonihongo.u-gakugei.ac.jp/>

参考 b 一般社団法人広島ベイネット(2023)「外国につながる生徒の進路支援～入門編～」

https://youtu.be/uMyRVj5E_IA?si=2lc6awEAe5-NnxwQ

参考 c 国際交流基金、日本国際教育支援協会「JLPT(日本語能力試験)」<https://www.jlpt.jp/>

参考 d 文部科学省「DLA(外国人児童生徒のためのJSL対話型アセスメント)」

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/003/1345413_00003.html

参考 e 出入国在留管理庁「在留資格一覧表」<https://www.moj.go.jp/isa/applications/status/qaq5.html>

参考 f 公益財団法人ひろしま国際センター「外国人相談窓口」<https://hiroshima-ic.or.jp/guide/consultation/>

参考 g 一般財団法人 日本国際協力センター(JICE)「定住外国人向け しごとのための日本語教室」

<https://www.jice.org/tabunka/>

参考 h 広島県高等技術専門校 情報サイト <https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/kougisen/>

〈制作〉

一般社団法人広島ベイネット 胡子和子

特定非営利活動法人 ETIC. 木村静

特定非営利活動法人ひろしまNPOセンター 吉本絢